

干し文化を守れ!わかめ干し若返りプロジェクト

ジェクト

NPO法人たけのかぞく



たけのかぞくについて

私たちは、兵庫県の最北端、豊岡市竹野町で、地域への移住促進をメインに活動しています。

また、竹野の町並みや文化など、「消えそうだけど守りたいもの」を次世代に伝承するための活動も行っています。

本事業では、そうした文化の一つ、「わかめ干し」を守るため、今年はわかめの干し手だけでなく、わかめを採取する「磯見漁師」の育成に注力しました。

事業の目的

「わかめ干し」文化の従来のスタイルを見直し、わかめを採取する「磯見漁師」を若い担い手が継承しやすいかたちを模索することにより、竹野の春の風物詩を守ること。

また、若者が地域の産業に関わることにより、地域に対する誇りを育むこと。

活動内容

「磯見漁師」の育成

本事業では、磯見漁師を育成するため「たけの漁師塾」を開催し、定員である5名が参加した。

【たけの漁師塾 開催内容】

2025年10月12日(日) 9:00～13:00

座学: 漁法の種類、漁船や漁業権の取得方法、必要な道具や初期費用についてベテラン磯見漁師が講義。写真1

見学: 漁師と漁船に乗り、磯見漁の現場（今回は季節の関係でサザエ漁）を見学。写真2

交流: 帰港後は漁師が参加者からの質問に答えながら、海鮮BBQで交流。写真3

販促資材の制作

昨年度事業で商品化した乾燥わかめ「竹野浜天然わかめっ娘」の店舗設置用大型ポップ(A3判)をデザイン・制作した。ポップには地域の魅力と商品の特色がよりよく伝わるよう、方言やイラストを盛り込んで工夫した。写真4

今後の展望

たけの漁師塾の参加者のうち、1名が来春には漁業権を取得するために既に動きだしている。

ただし、磯見漁師としていきなり専業で生業にするのは難しいため、他事業と複合的なプランを立てる必要がある。

来年度以降は、この新たな漁師の挑戦に密着することにより、その課題を洗い出し、さらなる新規漁師の育成や移住につなげていきたい。

